

平成21年 6月 8日

清水町議会議長 田 中 勝 男 様

清水町議会産業厚生常任委員会  
委員長 奥 秋 康 子

## 所管事務調査について

常任委員会活動として行う所管事務調査について、このたび調査を終えたので、その結果を下記のとおり報告いたします。

### 記

1. 調査事項 ①保育事業の現状について  
②御影診療所の整備拡充に関する支援について

2. 調査期日 平成21年5月26日

### 3. 調査の結果

#### ①保育事業の現状について

女性の社会参加や就業形態が多様化し、子育てに関する多様なニーズに対応した保育サービスが求められている中、町内の実情に応じた保育及び教育の取り組みの現況について、担当課の説明を聞き、その後、第一保育所、清水幼稚園の保育現場を視察した。

本町の保育事業の主なものは、常設保育所（第一、第二、御影）・へき地保育所（熊牛）・幼稚園・学童保育所（清水、御影）・きずな園の運営、子育て支援、乳幼児保育等である。

保育事業にかかわる予算は、歳入については保護者の応分負担が大半を占め、そのほかに国庫補助金や道補助金の交付等がある。歳出は総額 376,099 千円であるが、そのうちの 86.5%が職員 61 名の人件費として大きく占められている。

各施設の児童数は、少子化に伴い定員に満たない状況があるとのことで、常設保育所は定員 280 名のところ 190 名、へき地保育所は定員 50 名のところ 16 名、幼稚園は定員 90 名のところ 65 名で、合計 420 名の定員に対して 271 名となっている。また、父母が仕事等に従事し、下校後の子どもを見ることができない家庭の児童（小学 1～3 年生）に限られている学童保育所についても、清水と御影で 160 名の受け入れとなっているが、現在のところ 135 名の利用数ということである。現在、清水学童保育所については 90 名が入所し放課後児童クラブとして補助対象となっているが、平成 23 年度からは補助基準が 70 名以上のクラブは対象外となるため、小学校の余裕教室を活用した放課後子どもプランを進める中で放課後児童クラブの分割を検討している。学童保育所の保育料について、今は子育て支援対策の観点から徴収していないところだが、他町では大半が平均 4,000 円から 5,000 円程度を徴収していることもあって、これからの検討課題となっている。

今後は、行財政健全化実行プラン（第二次緊急 3 か年計画）の事務事業見直しにより、保育所タクシーを廃止した場合の新たな送迎補助制度の新設や 3 年毎の保育料の見直しを早急に検討し、更には将来の子どもの数や保育形態を考慮した保育所の統合や新たな取り組みとして「認定子ども園」の計画が必要になっている。担当課としては、平成 23 年までに御影保育所において「認定子ども園」を先行実施し、その後段階的に条件が整った施設から順次統合、将来的には全体（第一、第二、熊牛、幼稚園）で「認定子ども園」の計画を検討したいとの考えであった。

委員からは、「見直しの部分で保護者の料金アップがあるが、少子化の時代に子育て支援は大事であるから、保育料を安くできるよう

な対策が必要ではないか。」「町は財政がかなり厳しい状態で、認定子ども園が必要なこともわかるが実施できるのか。」などの意見が出された。

保育現場の視察を行った第一保育所は、児童数は未満児8名を含む87名、正職員と臨時職員を合わせ合計17名の保育士と調理員が配置されており、特徴ある保育としてはだし保育を実施していた。幼稚園においては、3歳児から小学校就学前の児童65名が通園、幼保小の連携を中心に交流会等を積極的に行っているとのことであった。また、最近の注目した取り組みとしては衛生面を考慮し、給食等で園児が使う水飲み用のコップは毎日自宅からの個人持参となっていた。幼稚園の屋外には空きスペースを利用した畑があり、園児が自分たちの手で野菜の種をまき、秋の収穫をみんなが楽しみにしているとのことであった。

今年度は、清水町次世代育成支援計画の後期計画を策定することになっているが、これまで以上に子どもが健やかに成長できるとともに、子どもの成長をしっかりと支えることができる環境づくりを推進できるものであってほしいと願っている。

## ②御影診療所の整備拡充に関する支援について

町民説明会が行われる御影診療所の整備拡充に関する支援について、担当課から説明を受けた。